

健康ぷらざ

No.234

企画:日本医師会

このごろ増えています

肺塞栓症

はいそくせんしょう

血液は肺できれいにされて、全身をめぐる、大静脈、心臓を経て肺に戻ります。

そのとき、大静脈(主に下半身)で血液の流れが悪くなって

血のかたまり(血栓)ができ、

それが肺に達すると「肺塞栓症」を引き起こします。

生活や食事の欧米化で、近年、肺塞栓症が増えています。

旅行者血栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)もそのひとつです。

重症の場合は命にかかわることもあります。

主な原因として、体を長時間動かさないことがあげられており、

また、手術後に発症が多いことも指摘されています。

呼吸困難や胸の痛み、咳や血のまじった痰などが代表的な症状です。

長距離旅行の際の予防法としては、弾性ストッキングをはいたり、

足首の関節を動かして、足の血液の流れをよくすることが勧められます。

水分もまめにとってください。

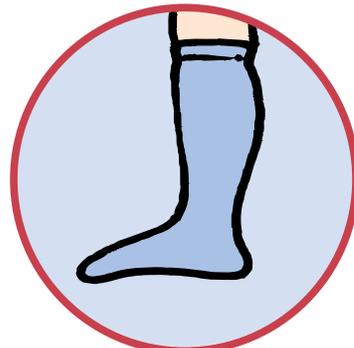
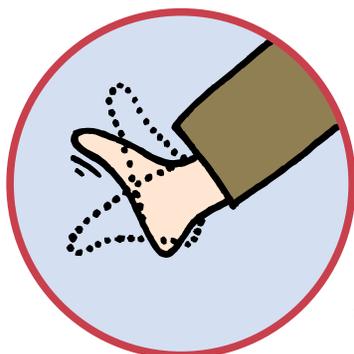
気になる症状があったら、早めにかかりつけ医に相談しましょう。

水分をまめにとってください。

弾性ストッキングは静脈を圧迫することによって血流を早めます。

※入院中には保険もききます。

足首の関節を動かして、足の血液の流れをよくしましょう。



指導:三重県病院事業庁/三重大学名誉教授 中野 起

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。